

骨髄腫患者における Cyclin A、Cyclin E、PCNA、p27/KIP1 の発現と予後

八田善弘、竹内 仁、澤田海彦

日本大学 血液膠原病内科

【目的】細胞周期関連蛋白の発現はリンパ腫、白血病を含む種々の腫瘍で予後因子となっている。本研究では細胞周期関連蛋白である Cyclin A、Cyclin E、PCNA、p27/KIP1 の発現と骨髄腫の予後因子を検討した。【方法】14 例の骨髄腫患者初診時の骨髄穿刺検体をホルマリン固定し、Cyclin A、Cyclin E、PCNA、p27/KIP1 の免疫染色を施行した。検体中の形質細胞は全例で有核細胞の 20%以上であった。

【結果】骨髄形質細胞中の Cyclin A、PCNA、p27/KIP1 陽性細胞の比率は、それぞれ 0-82.7% (平均 23.5%)、0-97.2% (平均 30.9%)、0-70.9% (平均 16.7%) であったが、Cyclin E は全例で発現していなかった。予後因子ごとに、これらの陽性細胞の平均を検討すると、Cyclin A は DS stage II で 3.5%、stage III で 31.7%、Hb>10 で 7.2%、Hb<10 で 44.8%、Alb>3.7 で 9.9%、Alb<3.7 で 42.3%、PCNA は DS stage II で 17.9%、stage III で 34.1%、Hb>10 で 26.1%、Hb<10 で 36.3%、Ca<10.5 で 22.0%、Ca>10.5 で 53.0%、 β 2-MG<6.5 で 27.5%、 β 2-MG>6.5 で 45.8%であり、いずれも予後不良因子を有する群が Cyclin A、PCNA 陽性細胞比率が高い傾向にあった。p27/KIP1 の発現は予後因子と一定の傾向は見られなかった。生存率は Cyclin A 陽性細胞<24%の群では全例生存していたが、>24%の群は予後不良であった。【結論】細胞周期関連蛋白の発現は骨髄腫の新たな予後因子となることが示唆された。さらに検討症例を増やして報告する予定である。